

小松市教育委員会会議録

会議名	令和6年第3回小松市教育委員会定例会					
開会月日	令和6年2月15日(木)	場所	教育長室			
会議時間	(開会)午後1時30分～(閉会)午後2時20分					
休憩時間	①(休憩)午前・午後 時 分～(再開)午前・午後 時 分 ②(休憩)午前・午後 時 分～(再開)午前・午後 時 分					
委員の出席	教育長	石黒 和彦	出席	委員	吉原 慎吾	出席
	委員	中惣 恭子	出席	委員	村井 啓介	出席
	委員	浅蔵 一華	出席	出席委員 4名 欠席委員 0名		
出席説明者	事務局長 林 政憲		出席	局次長兼教育庶務課長 東谷 勝美		出席
	教育ディレクター 中田 一宏		出席	学校教育課 参事 高橋 睦		出席
	教育研究センター所長 表 久美子		出席	生涯学習課長 藤本 圭志		出席
	図書館長兼南部図書館長 田中 明子		出席	ひととものづくり科学館 副館長 宮島 浩典		出席
	市立高校事務長 出口 真澄		出席			
書記	教育庶務課事務員 二木 有希		出席			
傍聴者	0 名					
会議に付した議題	【議案】					
	・議案第2号 小松市学校給食会補助金交付要綱の一部改正について(学校教育課)					
	・議案第3号 小松市学校給食費補助金交付要綱の一部改正について(学校教育課)					
	・議案第4号 令和5年度サイエンスヒルズこまつ科学賞被表彰者について (ひととものづくり科学館)					
	【報告事項等】					
	・寄附受納について(教育研究センター)					
	・令和5年度市立公民館生涯学習講座について(生涯学習課)					

教育委員会報告

令和6年2月15日

【議案】

件名	議案第2号 小松市学校給食会補助金交付要綱の一部改正について
所管部課名	学校教育課
内容	令和5年度に学校給食無償化の対象者が小学校まで拡大となったため改正を行う。
教育委員等の意見	特になし
	議案第2号承認

件名	議案第3号 小松市学校給食費補助金交付要綱の一部改正について
所管部課名	学校教育課
内容	令和5年度に学校給食無償化の対象者が小学校まで拡大となったため改正を行う。 また、昼食の範囲を学校給食のみならず持参弁当等まで拡大する。
教育委員等の意見	特になし
	議案第3号承認

件名	議案第4号 令和5年度サイエンスヒルズこまつ科学賞被表彰者について
所管部課名	ひととものづくり科学館
内容	1月25日に選考委員会を行った。チャレンジ賞5名、ホープ賞2名、サイエンス功労賞1名が受賞予定。3月17日にひととものづくり科学館 わくわくホールにて表彰式を行う予定。
教育委員等の意見	特になし
	議案第4号承認

【報告事項等】

件名	寄附受納について
所管部課名	教育研究センター
内容	学校教育の充実のためとして、株式会社勝木太郎助商店代表取締役勝木氏よりWebカメラ1台及び43型のワイド液晶ディスプレイ1台、小学校1年生用の鉛筆100ダースのご寄附をいただいた。2月6日に感謝状を贈呈する予定。

件名	令和5年度市立公民館生涯学習講座について
所管部課名	生涯学習課
内容	地域の学習の拠点となる市立公民館において、市民の文化、教養の向上及び健康の増進等を目的に、年間を通じて様々な生涯学習講座を開催している。令和6年の講座開催に当たり、広報こまつ3月号に講座情報を掲載する。資料は校正中のもの。 令和6年は9館、105講座を開催予定。その内23講座が新規のもの。
教育委員等の意見	【吉原委員】 それぞれ定員があるが、著しく下回ったり、あるいは上回った場合の調整はどのように行うのか
回答	【藤本生涯学習課長】 受講者数が少ない場合に休講になることはない。受講者数が多い場合は極力参加できるようにするが、抽選になる場合もある。

【その他】

件名	次回教育委員会会議日程について
内容	日時：令和6年2月26日（月）午後1時30分 場所：小松市役所 6階 教育長室

【教育委員からの意見・提言】

吉原委員	震災後の授業の再開や学校運営の再開、これが教職員の本分だと思うが、負担軽減のようなことは考えられているのか。先生方の使命感だけに頼った運営みたいなものが相変わらず行われているのではないかと心配である。これは小松市も他人事ではなく、十分に考えられる可能性があるので、県全体で情報共有し、実態を踏まえた行動マニュアルの見直しやルールの改定をお願いしたい。
中惣委員	先日、余震が続く中、立志式に出席した。大きな地震の後であったが、かかるといっていい。児童たちの挨拶が素晴らしく、成人式の代表あいさつでも感じたが、大人が思う以上にたくましく様々なことを学んで、これから頑張ろうと思っているんだなと実感した。
村井委員	<p>生涯学習講座について、多くの講座があるということはそれだけ講師の方がいるということだと思ふ。何か仕組みを考え、子ども達に地域としてスポーツあるいは文化活動を教えていくような場に発展していければ部活動の地域移行の壁を越えていけるのではないかと。</p> <p>自身が指導に関わっているスポーツも、能登地方・七尾地区であるが、震災によりかなり壊滅的な被害で、活動が全くできないに加えて、スポーツをやる雰囲気ではなく、コロナの時のような自粛ムードを感じる。復興復旧が第一ではあるが、子ども達の笑顔や勉強以外の事にも取り組める環境づくりを県全体として手伝えることがあればいいと考える。</p>
浅蔵委員	小松市の教育委員になり数カ月であるが、先月初めて立志式に出席した。国歌斉唱の伴奏が途中で止まるアクシデントがあったが生徒たちは臨機応変に最後まで動揺することなく歌いきっていた。そういうような場面場面でうまく対処していける姿を見て素晴らしいと感じた。